

新春 対談 トップ

世界から選ばれる



田舎付ていた方がいい。そういう人たちが、勇気をもらい、支えられました。事業をやるには、マネージャ面を、単にマネージャと捉えるのではなく、それを自身の教訓にして、どうフランスに転化するのかが、発想が必要。そうしないと、物事はなかなか進みません。

中嶋 どのくらい、日本人の学生は、本学に大学に行きたいと思ってるのでしょうか。アメリカ留学するにも、本学でアメリカに行きたいと思わないと、あれほど遠くまで行かないでしょう。そういう意味で、国際的な魅力を持たないといけない。あれだけ留学生が集まっているのは、APUにはそれだけの魅力があるということ。

留学生が日本に残ってくれるAPUの力

しょう。しかも、多くの留学生の卒業生が、日本で就職しています。これは今までになかったことです。非常に見習うべき点です。これからの時代に、多国籍多文化というものが必要なので、もっと開かれた大学や、社会を作らないといけないでしょう。

われわれも幸いにして、授業料を相互免除できる大学を一つ一つ増やしていった関係から、最近では、秋田で日本語教育を受けたという留学生がずいぶん増えてきました。この年も、台湾から学生がたくさん来てくれます。本学は、日本では話題になりませんが、海外ではまだ知られていない大学です。その

ような状況でしたから、授業料を相互免除するという提案は、外国の大学には授業料が入りませんし、メ리트が高いとは言えません。その状況が、最近変わってきました。先口「協定を結んでくれなかつ」と、それも韓国の一流大学の延世大学から直接、申し込みが来ました。協定校がだんだん増えてきました。

本学の魅力が伝わったと嬉しいと思いますし、そういう大学が、日本を増やさないといけないでしょう。

川本 開学当初、APUには10カ国・地域から留学生が来ました。それが20、30と増えていきました。そこを越えたいと、日本に来ていた各国の領事館・大使館の目の色が変わりました。大使が、自分の国の学生がAPUでどう学んでいるのかが気になりだしてきたからです。そこまでいくのには、ずいぶん苦勞しました。

また、いかに国際的人材が必要かについては、企業との国際的展開から考えることが重要だと思います。もちろん日本人、日本を愛し、信用し、日本の教育を受け、日本を理解してくれる外国からの人材が必要なのです。企業は、真の意味で日本を理解した優秀な人材を求めています。国際化の問題は、企業ともに学びあひながら、考えていく必要があるのです。

染谷 先づ、大学の職員の話が出ました。中嶋先生は、APUの職員を評価していますけれども、日本の大学では、職員のあり方、育成の問題も残されているのではな

本当の大学改革は、ま カリキュラムの



題も残されているのではな

中嶋 僕は、職員、教員が車の両輪という位置づけです。副校長の一人は職員で

大学にとって大切 な職員の質と意識

務局長も兼務しています。職員の名前も、MAやMBAを取った人や、授業を担当する職員もいます。かつて国立大学のときは、教授会で事務局長が学長の横に並ぶだけで、文句が出る時代もありました。私が学長になつてからは、後方に控えていました。初めに横に並んでほしい。本学は、事務局の代表が、着任決定の役割の一端を担っています。海外の大学では普通です。

また、入試の際にも、AO入試の会議にも、事務局長が入りますが、すぐ助かっています。本学のAOには染谷さんのおまな外部の人を入試の選抜の仕方が根本的に変わりました。

川本 特別なことで言えるかどうか分かりませんが、実は開学まで時間もなかったから、教職員でチームを作り、20カ国へ一斉に学生募集に行かせたことがあります。目的地に着いてからは、時間がかかると、地元教育委員会には行かず、直接高校へ行き、生徒の名をAPUに送ってください。成績の評定基準はこうです。そして、そのうち一人には奨学金をだし、最も成績のいい生徒は、学費免除とします。校長先生と直接交渉して、このように指示をだしました。契約を結ぶなかつたら、日本に帰ってくるな、というくらい、の意気込みで行きました。マレーシアのある高校では、日本の大学が、初めて直接こちらに来てくれた」と感激してくれました。そうしてことが出発となり、「あの生徒がAPUに留学した



川本 特別なことで言えるかどうか分かりませんが、実は



中嶋 嶺雄先生

まずは、まず、ラムの改革を

ラムにも生徒を送らうと、また別の留学生を送ってくるようになったのです。

大きい寮の方と現地 の高校訪問の成果

染谷 海外の高校との連携、そのうちたことが背景にあったのです。日本の高校訪問と同じですね。中嶋先生のところも海外から留学生を受け入れていますが、提携先が3年で60校以上です。

中嶋 いまは70校に到達していますが、最初はひやひやしました。

長い間の人脈を探って、一人ひとりに私が直接、電話をかけました。そのかきがあつたのか、初年度のサマープロ

グラに30、40人が集まってくれました。それが成功し、帰国した留学生から「秋田はよかった」「日本の留学はよかった」と口コミが広がったのです。

川本 実際に、キャンパスに足を運んでもらうことも重要ですね。

昔、韓国の親から、ソウル大学に息子を行かしたいが、息子がAPUに行きたいと言っている相談がありました。

それで、一度、その親がAPUに来てくれましたので、学寮の施設見学をしてもらいました。それがよかったです。

染谷 お二人とも、これまでの日本の大学ができなかったことをおやりになっていますね。最後にこれからの若者について、期待することはなんですか。

中嶋 全世界に目を開く人材の養成が義務です。日本社会も、本格的なグローバル化が始まっています。それに対応するような人材が足りません。私の教え子にも、国連で働いている人がいますが、国連の職員に日本人は少ない。職員の比率はわずか4・5パーセントです。それを増やそうにも人材がいまいません。外国語が駆使できて教養がある人がいけません。国際的に通用する、世界に目を向け、切り開いていくような若者がほしいと思います。

川本 これからの学生は、まず外国人の友人を作らないといけないでしょう。そのためにも、国際的な広がりやわれわれがどう援助し、形成するかが重要ですね。

国際教養大学理事長・学長 中嶋 嶺雄

長野県出身。1965年東京大学大学院修了。社会学博士。1995年～2001年東京外国語大学学長。現在、文部科学省中央教育審議会委員、教育再生会議委員などを兼務。2004年4月より公立大学法人国際教養大学理事長・学長に就任。主な著書に「21世紀の大学」「国際関係論」「中国」などがある。

また、人の意見を聞ける力量と同時に、明快な自己主張が必要ですね。本学の留学生は自己主張がはっきりしていますが、日本人学生は遠慮がちです。

そして最後に、人を束ねる力量です。組織的能力を発揮できる人間、この能力を日本に若者には身につけてほしいですね。国際社会で、「自分だけいい」は通用しません。この束ねる能力を、プログラムとしてどう作成するかが課題です。われわれは、プロジェクトを作るのが重要だと考えています。個人だけではだめです。一人ひとりの人間の持つ共通項を見つけて、集団の力量を束ね、発揮させ、推進していく、それが重要なことです。

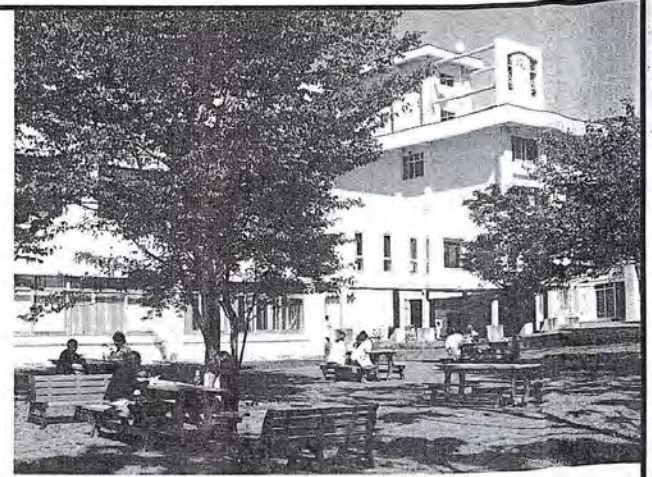
中嶋 それは大事なポイントです。われわれの大学では卒業するときにセミナーというものを構想していますが。卒論と自分一人ですが、プロジェクトを作って、自分の問題意識を語りあって、それを推進するためには、どのような研究すればいいかを調べ、発表します。それを先生がコメントするとうことを全員に行おうと考えています。外国の学校では、小学校のころから当然のものとしてやっていますが、日本の大学では欠けていることなのです。グループで何かを作り上げる経験が、ぜひ必要ですね。

染谷 いま、多くの大学人は改革の必要性を認識していますが、そのための具体的な行動ができていないのが現状です。ところが、お二人は、その理想とするものに向かって行動されています。そしてそこには21世紀の世界、世界における日本のあり方、ビジョンが明確に据えられています。本当然、お話の時間が足りないのが残念です。

本日は、貴重なお話をありがとうございました。



染谷 忠彦 東京都出身。1965年東洋大学経済学部卒業。同年同大の職員となる。2003年の定年退職まで大学運営に携わり、入試業務では他大学に先駆けた入試改革や斬新な広報活動を展開。2003年から女子栄養大学広報部長兼理事兼付部長に就任。



【キャンパスガイドに使用したデータ。その他は、旺文社発行「全国大学内容案内」(2006・8・14発行)による。

公立大学法人 国際教養大学

【所在地】
〒010-1211 秋田県秋田市雄和椿川字奥椿岱193-2
TEL 018-886-5900
【交通】
JR奥羽本線和田駅下車、バスで約20分。
または秋田空港からタクシーで約5分。

■学長・理事長 中嶋嶺雄(国際社会学者/前東京外国語大学学長)
■教員数 教授23・助教授12・講師33(常勤15・非常勤18)
うち外国人教員数29

学生生活と環境

- 一年間の全寮制生活
入学後の一年間は、留学生も含め、全員が大学の個室寮で生活する。留学生とも寝食をともにするこの寮生活によって、日本人学生は、日本に居ながらにして、異文化交流を体験し、外国人学生は日本語のコミュニケーション能力を高めることができる。
- 設備・環境
緑に囲まれた広大なキャンパスには、多数の洋書を所蔵する24時間オープン図書館、異文化交流センター、カフェテリア、コンピュータールーム、学生寮、学生用アパートなどが設置されている。
また、秋田県最大のスポーツゾーンである秋田県立中央公園がキャンパスに隣接しており、テニスコート、バスケットボールコート、トレーニングセンターなどを利用することができる。

■学生総数 男129・女273 計402
■新入生総数 132
■設置学部 国際教養学部